



**JLY**  
JAPAN LOGHOUSE OF THE YEAR  
2009

2009年度  
日本ログハウス・オブ・ザ・イヤー  
日本木材青壮年団体連合会  
会長賞

応募作品名=湧々山荘 夢のつづき 応募者=鞭馬工務店

# 雄大な風景を望む阿蘇の麓に 地元の小国杉を使って建てた別荘

写真●内田洋司  
photo by Yoji Uchida  
平面図●長岡伸行  
floorplan by Nobuyuki Nagaoka



家の南北方向に、表面を美しく磨きあげた丸太の梁が通っていて、これが素材で力強い印象を与える。途中で継いでいない一本もののスギで、根株の形をそのまま生かした形状だ



①ログ材は、角が丸みを帯びた形状に仕上げられており、一般的なマシンカット材と比べて柔らかな雰囲気。塗料は、亜麻仁油、ベンガラなどを主原料とする浸透性の自然塗料、いろはを使用している ②使っているのはすべて小国杉を自社の作業場で加工した芯持ち材。厚さ12cm×高さ21cmと大型のログ材で、高級感がある

キッチンとリビング・ダイニングを隔てるカウンター。ログ壁をアールにカットしているのは、智子さんの要望によるもの。このおかげでキッチンに居ながら外の風景を眺めることができる



2009年度の日本木材青壮年団体連合会会長賞を受賞したのは、鞭馬工務店の「湧々山荘 夢のつづき」。地元、熊本県の小国杉を使い、オリジナリテイ溢れるログハウスづくりをしている点が評価されての受賞となった。

鞭馬工務店は、阿蘇郡南小国町にある小規模なメーカーで、J-LYの受賞は昨年の優秀賞に引き続き2度目である。同工務店の大きな特徴として挙げられるのが、工程の多くを自社で行っていること。設計からログ材の加工、基礎、仕上げまで、工事のほとんど外注をせず自分たちで手がけているため、すべての工程に

おいて責任ある施工ができ、しかもコストも大幅に軽減することができるとのこと。実際に、本作品も1階約61㎡、2階約43㎡、延べ床面積104㎡で総工費1850万円と、ローコスト。ただし、低価格とはいえない素材や設計には多くのこだわりを見ることができる。

ログ材は建築地の熊本県南阿蘇から50kmほど離れた小国町のスギを、自社作業場で加工したマシンカット材。ユニークなのは、このマシンカット材に丸太のままの小国杉を組み合わせていることだ。これらの丸太は、高水圧で皮をむいた後、手作業で表面を磨き上げたもの。小屋組み

や梁にこの磨き丸太を使うことで、マシンカットでありながら素材な手づくりの雰囲気が残る、不思議な雰囲気をつくり出しているのである。

オーナーは、熊本市内に住む幸弘さん、智子さんご夫妻。幸弘さんは「蓄積家には必要ない。夏はペラペラで安蘇五岳を見ながら、冬は薪ストーブの炎を見ながらビールが飲めればいい、とだけ思ってた建てたんです。希望通りのログハウスができてうれし」と話す。智子さんも「予算もないし、まさか自分がログハウスのオーナーになれるとは思いませんでしたが、いい工務店さんに出会えてよかったです」とこやかだ。



床材にヒノキを使ったリビング・ダイニング。吹き抜けの北側には、一層90cmほどのキャットウォークがある

南側は芝が広がる庭になっている。左手に見える幸弘さん手づくりの薪小屋には、たくさんの薪がストックしてあった



小屋根のかかったポーチはタイル張り。アプローチと段差のないバリアフリー仕様だ。枕木を使った門柱もおしゃれ

外からこのログハウスを見ると、2階部分は在来構法で組まれていて、壁が1mほど立ち上がっていることがわかる。さらに、東側にはシェッド・ドーマーもあり、これが2階の居住空間を大きく広げている。

緩やかなS字を描くアプローチを抜け、小屋根がかかったタイル張りのポーチから室内に入ると、そこは広々とした玄関。そして、短い廊下を挟んだ向こうには36㎡ほどのリビング・ダイニングが広がっている。ここは吹き抜けになっていて、とても開放的な空間だ。もちろん薪ストーブも設置してある。また、1階にはこのほか、4畳半の和室やキッチン、風呂場などもある。和室とリビング・ダイニングはひとつながりの空間になっているが、プライベートな空間が欲しいときは、引き戸を閉めて区切ることも可能だ。

2階は16㎡ほどの寝室と20㎡弱のフリースペースというシンプルな間

取りで、北側には広めのベランダが設けられている。置いてあったベンチに座ると、幸弘さんの希望通り、目の前に安蘇の山々を見ることができ

る。この雄大な景色を前に飲むビールの味は、さぞかしおいしいことだろう。

「地元で工務店が、自分の山の木を伐ってオーナーさんと一緒に一生懸命建てたログハウスです。どうぞ見てください、と自信をもっている家ができました」と話すのは、鞭馬工務店の鞭馬聡美さん。その言葉通り、職人の技術と心意気、そして住む人への思いやりが感じられるログハウスである。



③風呂はログ壁表しだ。洗い場には天草石を使用。この石は、濡れると色がより鮮やかになる ④風通しのよいキャットウォークは、庭で採れた野菜を保管しておくのに最適 ⑤2階の寝室の窓からは、リビング・ダイニングを見下ろせる。また、この窓を通して見る阿蘇の風景が、智子さんのお気に入りだそう

阿蘇を眺めながらビールが飲みたい。そのため建ってたログハウスです。



### ここがPOINT 家づくりのアイデア

## 地元の小国杉を自社加工したマシンカット材を使っています

鞭馬工務店／鞭馬聡美さん

ログ材は、地元の小国杉を自分たちで加工しています。また、内壁や天井材、そして手づくりの建具にも小国杉を使っており、室内は木の香りでいっぱいです。人体への影響を考え、塗料も自然塗料を使っています。施工はいつも通り、基礎から仕上げまで、同じ顔ぶれで行いました。最初から最後まで関わることで、みな熱意をもって仕事ができますし、コストダウンにもつながります。間取りや窓の位置などのプランは、續さんご夫妻の意見を伺いながら、一緒に形につくりあげました



リビング・ダイニングの西側には、遊び心ある明かり取りの窓が付けられている。薄い緑色をしたガラスは、バリ島でつくられたものだろう



① マシンカットのログ材と磨き丸太の結合部分。大工の技が生かされている  
② 雨が多く風も強い地域だけに、雨対策が大切。ログ材は板金で雨仕舞いしている。また、軒も深めだ

大きな窓があるおかげで、室内はとても明るい。左手に見える和室の引き戸も、小国杉を使って手づくりしている



### オーナーさんの家づくりエピソード

## ここ来ると心が癒される。毎週末来るのを楽しみにしています

續 幸弘さん

鞭馬さんには何軒か完成物件や施工中の物件を見せてもらううちに、ここにお願ひしたいと自然に思うようになっていました。実をいうと、ほかのメーカーさんのログハウスを見たことがないのですが(笑)、自信をもってこの家はいいといえます(幸弘さん)。ここ来ると肩こりが楽になったという人もいます。私も、例え短い時間でも週末ここにくると元気になれるんです。週末にここを訪れることを、夫婦で楽しみにしています(智子さん)。



幸弘さんは登山やロッククライミングが趣味というアウトドア派。智子さんともよく山にでかけるそうだ



これからの人生を楽しく過ごす場所として、ご夫妻はここを湧々山荘と名づけた。玄関にはこんな表札も



③ 自宅はマンションなので、このログハウスでガーデニングや畑づくりを楽しんでいる智子さん ④ 九州とはいえ、冬は冷え込む。幸弘さんの希望でもあった薪ストーブを設置した。別荘であることを考え、すぐ温まる銅製の機種を選んでいるそうだ 炉台はシンプルなレンガづくり



1階2階は在来構法で組まれていて、壁が1mほど立ちあがってる。そのため、居住空間がとても広い。また、空中には太く力強い一本ものの梁が通っている。リビング・ダイニングの奥にある和室。南側にあり、日当たりがとてもいい。押し入れの建具も、小国杉を使って手づくりしたものだ

玄関がある南側。緑色の瓦と珪藻土の白い塗り壁、そして薄めの色で塗装されたログ壁のコントラストが美しい。和と洋の雰囲気両方を併せ持つ外観だ



**LOGHOUSE DATA**

●使用目的=住宅●所在地=熊本県阿蘇郡南阿蘇村●敷地面積=500.0㎡●延べ床面積=104.7㎡[1階=61.4㎡、2階=43.3㎡/デッキほか=21.7㎡]●着工日=2008年1月●完成日=2008年11月●構法=丸太組み構法(オリジナルノッチ)●使用ログ材=バイン(サイズ=12.0×21.0cm)●基礎=ベタ基礎、布基礎●外部仕上げ[屋根材=エスパニカ/建具=アルミ製ドア、アルミ製ペアガラス・サッシ/塗料=いろは(2回塗り)]●内部仕上げ[天井材=スキ、床材=ヒノキ、塗料=いろは(2回塗り)]●総工費=1850万円・税込/仮設工事費=50万円、基礎工事費=50万円、ログ材料費=350万円、組み上げ・大工工事費=500万円、屋根・板金工事費=150万円、左官・塗装工事費=200万円、設備工事費=200万円、外構工事費=60万円、その他=190万円●設計=續 幸弘、鞍馬工務店●施工=鞍馬工務店

*JLY 2009 Prize!*

2009年度日本ログハウス・オブ・ザ・イヤー日本木材青壮年団体連合会会長賞を受賞した鞍馬工務店には、副賞として日本オスモ様よりドイツ製自然植物油ベース無公害塗料「オスモカラー」(15万円相当分)、また、ハスクバーナ・ゼノア様よりチェーンソー作業時にあるとうれしい「チェーンソーアクセサリー3種」、フォレストヘルメット(定価1万1025円)、コンビ缶(定価7560円)、薪割り斧(定価9240円)が授与されました。



問い合わせ  
日本オスモ様

〒673-1111 兵庫県三木市  
吉川町上荒川 748-6  
TEL: 0794-72-2001  
FAX: 0794-72-2000  
URL: www.osmocolor.jp



問い合わせ

ハスクバーナ・ゼノア様  
〒350-1165 埼玉県川越市南台 1-9  
E-mail: info.hv@husqvarna.jp  
URL: www.jp.husqvarna.com

**講評**



選考委員 久我洋一  
まさくに日本のログハウス

日本国内におけるログハウスを、世代の枠を超え多くのお施主様へ広げていくためには、より現実的な目線で設計、建築に向き合っていく必要があると考えます。

この度は、数多く応募された国産材使用作品の中から同作品を選択させて頂きました。日本国内では未だ完全には根付いていないログハウスを、鞍馬工務店さまは、その用途に拘らず、お施主様のご要望に的確にお応えしつつ、セカンドハウスとして、時には終(つい)の住まいとしてこれまでも供給してこられました。

た。それらの作品は、ログハウスが持つ質感を十分に確保し、機能面を充実させ、更にはコスト意識を十分に考慮された、地産地消をコンセプトに地元小国杉をふんだんに使用された、まさに「HEE ログハウス」[「JAPAN」]であります。

今年もまた、より進化した作品を設計、建築され、堂々と応募されました。

鞍馬工務店さまにおかれましては、引き続きより多くのログハウスを設計、建築、供給して頂きたく、心より期待申し上げます。

日本木材青壮年団体連合会 2009年度会長